

令和5年度第4回多摩市立学校給食センター運営委員会要点会議録

【日 時】 令和6年1月30日（火）

午後3時30分～午後4時15分

【場 所】 多摩市役所 第二庁舎1階 会議室

【出 席】 11名（欠席2名）

【傍聴人】 なし

配布資料：会議次第、令和6年度多摩市立学校給食センター給食費会計予算書（案）、令和6年度多摩市立学校給食センター給食費会計予算に係る参考資料、飲用牛乳の停止状況の経過について、食品加工会社による食肉の産地偽装について、牛乳びんの破片による児童のケガについて

1. 議事

(1) 令和6年度多摩市立学校給食センター給食費会計予算書（案）について

多摩市立学校給食センター給食費会計要綱第7条に基づき、教育長から多摩市立学校給食センター運営委員会に対して、令和6年度多摩市立学校給食センター給食費会計予算書（案）に関して諮問を受けたため、学校給食センター長から会長へ諮問書を渡し審議をお願いした。その後、事務局より「令和6年度多摩市立学校給食センター給食費会計予算書（案）」及び「令和6年度多摩市立学校給食センター給食費会計予算に係る参考資料」に基づき説明があった。

収入の部について、令和6年本年度予算額は、学校給食費の現年度、5億2,381万9千円、過年度は213万9千円で計5億2,595万8千円である。諸収入は4,841万6千円とした。収入合計は5億7,437万5千円となる。

参考資料について、一部訂正が生じた。諸収入のところの2行目4列目「物価高騰対策による学校給食費負担金」の差引額が空欄。正しくは-103万5,507円である。訂正をお願いしたい。

現年度予算については、令和6年度の給食センター稼働日195日から小中学校の学年ごとの基準日数、児童生徒数や教職員数の推計、学級閉鎖等の見込みをたてて、喫食数を算出し積算をした。今年度と比べ全体的に児童生徒や教職員数の喫食人数が減っており、536万4千円の減となった。今年度の繰越金が約2,000万円だったこともあり、総額としては今年度より2,710万円2千円の減となった。

支出の部は、収入合計5億7,437万5千円と同額で予算を組み、給食物資を購入させていただく予算となっている。

なお、学校給食費については、保護者負担軽減のため、東京都が公立小中学校の学校給食費に対する財政支援を行う方針を決定したことから、現在、市では都からの補助を財源に、公費による保護者負担の軽減を検討している。都からの支援策が明らかになり、公費負担について議会の承認が得られれば、令和6年度学校給食費会計予算の内訳、例えば、現年度給食費や諸収入の負担金など、積算内訳が変わることになるが、予算総額の規模は先ほど説明した5億7,437万5千円から多少前後は生じるが、大きな変更はないと思われるため、このことをご理解いただき本日はこの予算案で教育委員会へ答申することをご承認賜りたい。

【委 員】 児童・生徒、教職員が約400人減って予算額が下がるのは理解できる。また、児童・生徒数の減り方には何か特徴があるのか。

【事務局】 学校（地域）によって違いがあり、例えば駅前の多摩第一小や東寺方小は児童数が伸びているが、ニュータウンの団地内の中にある貝取小や豊ヶ丘小はだんだんと減少している。今後6年間の推計を毎年出しているが、その中ではやはり児童生徒数は緩やかに減少に向かっている。今まで約1万人いた児童・生徒が、1万人を割り込んできているため、300から400人程度の減になる見込みである。ただ、大規模なマンション等が建設されると急激に増えることがある。状況によって変わってくるとご理解いただけたらと思う。

【委員】 他、質問等なし

【会長】 賛成の挙手多数により、原案の通り答申することとする。

(2) 飲用牛乳の停止状況の経過について

教育委員会では令和4年8月に学校給食の牛乳に関する請願を受け、診断書を提出せずに飲用牛乳停止の対応を行うことを採択した。その後、学校給食センターが学校長や給食主任、養護教諭の意見をふまえ、昨年9月（二学期）からアレルギー以外は医師の診断なく届出により止められるようになった。牛乳停止の児童生徒数の推移は、医師の診断が必要だった1学期は小中学校全体で109人であったのが、2学期は379人と約3倍に増え、3学期はさらに増えて計421人となっている。この増加傾向が来年度の新学期にどう推移していくか、特に新1年生の動向に注視していきたい。

【委員】 質問等なし

(3) 食品加工会社による食肉の産地偽装について

前回の書面開催以降の経過と内容状況、今後の対応等について報告した。

産地判別検査では外国産の輸入肉であった可能性が高いこと、また、食品検査については精肉として健康上何ら問題がない結果であったことを確認した。さらに、これまで健康被害の訴えもなく、国が示した「学校給食衛生管理基準」に基づき適切な加熱調理をしていることから、安全な食材を使用して調理した献立であったと判断、その旨を全小中学校と保護者に文書を発出し、ホームページにも掲載し公表した。今回の産地偽装については、食品加工会社による不正行為を未然に防ぐことができなく、これまで積み上げてきた学校給食に対する信頼を裏切ることとなり、まことに遺憾であり申し訳なく思っている。今後はこのような不正行為が行われぬよう、納入業者に対してしっかり注意喚起し、納品時まで産地証明書の提出を要請するなど周知徹底を図り、今後も気を引き締めて安全で安心な学校給食の提供につとめていく。

【委員】 質問等なし

2. その他

(1) 牛乳びんの破片による児童のケガについて

小学4年生の児童が、牛乳びんの破片が指に刺さってしまった。幸いケガは軽く大事には至らなかったが、牛乳びんのひび等はこれまでも複数の報告があがっている。今後、口を切ったり破片を飲み込んだりする重大事故につながりかねないことを重くとらえ、製造納品業者には製造工

程から運搬配送までに、破損や欠損に至るような衝撃や振動、またはびん同士の接触など問題がなかったか調査を依頼した。どの場面どの工程でこうした事象が起こるのか現在明確になっていませんが、さらなる原因の究明と再発防止に向けた対策を検討していく。

【委員】 びん牛乳になって、何年になりますか。

【事務局】 令和2年度からパック牛乳からびん牛乳に変更した。

【委員】 今回のようなことは初めて聞くが、以前からあったのか。

【事務局】 最近少し増えてきた。びんは一定の年数が過ぎたら交換するようになっているが、交換していないびんで起きた。

【委員】 他の市でも発生しているのか。

【事務局】 青梅市や稲城市に確認したところ、事故にはなっていないが、割れることは時々あるとのこと。製造工程の検品作業では割れはないので、その後の配送か配膳かその辺はわからない。そこが課題であり、今後、納品業者さんと原因究明を図っていきたい。

(2) 新学校給食センター建設に向けた検討状況について

来年度、建設候補地の検討を進めることと、建てる場合の基本計画をコンサルタント業者に委託して作業を進めて行けるように予算を要求した。議会の承認が得られれば、これを機に一步一步前へ進めていきたい。進捗状況に合わせ、来年度も運営委員会の中でご議論・ご検討いただいきたいと考えている。

【委員】 コンサルタント委託も大事だと思うが、市民が意見を伝える機会はあるのか。

【事務局】 基本計画の策定ではパブリックコメントを実施し、直接説明会を開催して意見を聞くことにするか、今後、可能な限り意見を聞く場をつくりたい。その一つとしてこの運営委員会の皆さんも意見を述べる重要なメンバーになっているので、他に教育委員会や議会など多方面に意見を聞いて、それを集約してうまく建て替えに向けて動いていきたい。今後どういう形で意見を吸い上げるかは、これから検討していく。

【委員】 稼働開始のめどは決まっているのか。

【事務局】 今の既定の方針では令和9年度内となっているが、あと3年と期間が短い。現実的には令和10、11年度になるかもしれないが、先延ばしすぎると老朽化が更に進んで給食センターが止まってしまう危険性もある。できるだけ早い時期に建て替えをして稼働させていきたいと考えている。

【会長】 本日の会議はこれで終了となります。本年度の会議も本日で最後となります。委員の皆様、1年間ありがとうございました。